



# 目次

1	何を	三
	“研究”の意味	三
	研究分野とF因子	四
	基礎研究	六
	応用研究	九
	“応用”指向性	一〇
	科学の分野	三三
	専門分野の決定における注意	三三
	知識曲線	三六
	専門の変更	四一
	研究以外の興味について	四四
	大学で教えてくれない技能	四四
2	どこで	五
	大学	五
	国公立研究機関	五
	研究組合	七

3  
い  
つ

私 企 業	六九
職場と家の距離	六〇
近くの人の重要性	六三
研究活動の場所	六四
新旧どちらがよいか	六六
野 外 実 験	六八
実地テスト	七二
人を訪ねること	七三
会 議	七五
外国人とのコミュニケーション	七七
展 示 会	七九
研究はどこでもできる	八〇
進路の計画	八二
科学者の仕事の多様性	八四
どこまで正規の教育を受ければよいか	八五
科学者の人生設計	八六
一つのポストにどれくらいいるのがよいか	八七
科学者か管理者か	九一

目 次

4 誰  
が

発見の諸段階	三
いつでもだけ書けばよいか	三
研究のベース	六
副次的な興味	一三
スケジュール	一三
いつでもだけ読めばよいか	一四
詳細な予定	一六
日々のスケジュール	一〇
睡眠に関する注意	一三
超過勤務	一四
学校の影響	一六
大学の影響	一〇
博士(Ph・D)の学位	一三
どれだけ記憶すればよいか	一四
知能と記憶	一六
どんな気質が必要か	一六
自然は敵意をもっている	一三
新参者の強み	一三

## 5 いかにしして

科学者と創造性	一三五
どれだけ熱中すればよいか	一三六
科学者と健康	一四〇
研究業績の評価は論文の引用頻度で	一四二
猿真似はやめよ	一四三
女流科学者	一四六
人を知ること	一四七
研究の手法	一五二
文献調査の技法	一五三
問題分析の手法	一五六
例 電光のショウジョウバエに対する影響	一五七
不正確さに対する態度	一六〇
理論か実験か	一六一
思考と行動の使い分け	一七二
有意な結果を得る確率を考えよ	一七四
ノート作りの手法	一七六
装  置	一八二
誤  差	一八六

参 考 文 献

近似の問題	一八九
助手の扱い方	一九二
新しいアイデアの扱い方	一九五
なぜ“なぜ”を問題にするか	二〇〇
国家的要請	二〇一
なぜ技術でなくて科学を研究するか	二〇三
個人的な理由	二〇五
モチベーション	二〇五
個人的な満足感	二〇七
目標達成の喜び	二〇八
科学的好奇心	二一〇
技術と人間の福祉	二一一
望ましいものとは何か	二二三
	二三五

6 な ぜ